



五ヶ瀬川でアユを釣り上げる愛好家(きょう午前、延岡市北方町八峽)



釣行を楽しむ愛好家たち(きょう午前、日之影町旧役場前)

解禁アユ漁

愛好家「初日はお祭り」

6/1 ワクチン接種の県外組も

夏の訪れを告げるアユ漁がきょう、延岡市の五ヶ瀬川水系と門川町の五十鈴川水系の河川で解禁された。このうち、五ヶ瀬川水系の本流、支流が流れる同市北方町八峽や日之影町七折などの人気スポットでは、青空の下、早朝から愛好家が長いさおを巧みに操りながら、清流の女王「との駆け引きを楽しんでいた。(8面に関連記事とグラフィ特集)

絶好の釣り日和となったものの、「この時期にしては遡上(そじょう)が少ない。解禁日は厳しい」と漁協関係者の予想通り、釣果にはばらつきが見られた。水量が多かったのも影響した。

きょう、五ヶ瀬川水系など

た。

それでも、人気スポットの一つである旧日之影役場前には、日の出とともに両岸で3人がさおを振り始めた。2時間ほどして水温が上がりました、さらに1人、2人と姿を現した。

延岡市富美山町から訪れていた会社員の河野光映さん(41)は、「この日はお祭りみたいなもので、仕事を休んで来た。大雨で川石が砂利に埋まってコケも生えず、アユもまだ白い。状態が良くなるよう期待している」と瀬に立った。

福岡から毎年グループで遠征しているという久留米市の自営業、橋本一緒さん(69)は「解禁日は誕生日以上の楽しみ。新型コロナウイルス接種も確認済み。きょうは15匹釣れば上々。また泊くらいで来たい」と笑顔で語った。



細心の注意を払いながら収穫作業をする藤本さん(31日、延岡市北方町上崎)

色、甘みとも上々

北方町
特産

極わせもも ちよひめ

延岡

収穫開始 今月上旬からは露地物へ

延岡市北方町上崎の農業、藤本博明さん(71)のハウスで5月30日から、極わせもも「ちよひめ」の収穫が始まった。今月上旬からは露地物に移り、7月上旬まで収穫と出荷が続く。

甘い香りが漂うハウスでは、夜明けと同時に作業がスタート。妻の榮子さん(64)と共に、玉太りや色艶などを見極めながら、丁寧にもいでいく。柔らかいももは、強くにぎつたり、枝などが当たるのとダメージを受けるので、繊細な力加減が要求される。

ももの栽培を始めて30年以上になる藤本さん。現在は10坪のハウスと30坪の露地で「ちよひめ」のほか、「さく

ひめ」「日川白鳳」あかつきの4品種を栽培。収穫のトップバッターが「ちよひめ」だ。朝のうちに収穫を終えると自宅で選別と箱詰めを行い、JA延岡を通して延岡綜合地方卸売市場や宮崎市内、大分県内の市場に出荷される。一部はJA延岡の産直市場や道の駅北方よちみろの店頭などにも並ぶ。また、同所では6日に恒例の「桃まつり」が開催され、藤本さんのほか同

町内の生産者が新鮮なももを出荷する。「長雨の影響を心配していたが、この1週間の好天で順調に生育しました。色づき、甘みとも上々の出来」と自信をのぞかせる藤本さん。

一方で、近年では町内の桃農家も減少し、大きな懸念材料となっている。だが、藤本さんはそんな中でも昨年「さくひめ」を新たに15坪分植えた。迷いながらもやれるだけ頑張るしかない。後に続いてくれる人が出てきてくれれば」と尽きない意欲を口にした。